

かごしま NIE通信

発行 鹿児島県NIE推進協議会 (南日本新聞社内) 〒890-8603 鹿児島市与次郎1-9-33
電話 099(813)5168 FAX 099(813)5017 メール nie-kago@373news.com

教育に新聞を



Newspaper in Education

個性豊かな実践続々

鹿児島県のNIE実践校の取り組みを紹介し、与論中学校(与論町)はテレビ会議システムを活用し、新聞記事を使ったキャリア講座、大隅南小学校(曾於市)は複式学級での国語授業、宇宿小学校(鹿児島市)は物語を新聞形式でまとめる授業を公開しました。

新聞使つて

説明文理解

大隅南小

NIE実践校3年目の

大隅南小学校は11月21日、5・6年の複式学級(児童3人)で、新聞を活用した国語の公開研究授業を行いました。写真。



5、6年とも説明文を読み取り、表現や構成の

工夫について考えました。5年生は天気を予想する文章から、グラフや図が文の内容をわかりやすく説明していることを学び、最後に新聞からグラフや図を見つけ、その効果を考えました。6年生は「鳥獣戯画を読む」から、筆者が伝えたいことを効果的に表している文章を見つけ、さらに新聞から同様に工夫した表現を探しました。



テレビ会議システムを使い、あこがれの職業人の話を聞く与論中の生徒たち(与論中提供)

ネット結びインタビュー

与論中

与論中学校は12月6日、鹿児島市の鹿児島大学とインターネット回線で結び、あこがれの職業人にインタビューを実施。リアルタイムの音声と画像を通して働く喜びや苦労、心構えなどを教わりました。

ホテルのシェフらに話を聞きました。生徒は事前にそれぞれの職業を紹介する南日本新聞の連載記事「ワークわくわく」を読み、質問内容を考えて臨みました。鹿児島大学教育学部の教室で鹿児島ユナイテッドの塚田翔悟選手、鹿児島サンロイヤルホテル洋食部の有馬大貴主任、かごしま水族館展示課の久保信隆主幹らが生徒の質問に答えました。

宇宿小

物語読み解く 5W1H着目 宇宿小学校は10月4日、3年生の国語の公開研究授業を行いました。児童たちは、戦争が舞台の物語「ちいちゃんのかげおくり」を読み、主人公が家族とかけおくりをする場面と、家族を失った主人公が1人でかけた

推進協HPを開設



鹿児島県NIE推進協議会のホームページを、事務局のある南日本新聞社のホームページ内に開設しました。NIE活動の普及・拡大を目的に、推進協の取り組み紹介のほか、これまでの実践校一覧や実践報告書も掲載しています。アドレスhttps://s1.373news.com/k_nie/

おくりをする場面を、それぞれ新聞形式でまとめました。山之内勲教諭は「記事のように『いつ』『どこで』『だれが』など5W1Hに着目して、二つの場面を比べることで、変化を読み取らせたかった」と話しました。

2月18日に実践報告会

本年度のNIE実践報告会を2月18日午後2時から、鹿児島市の南日本新聞社で開きます。実践校13校が1年間の実践を振り返り、成果や課題について話し合います。

新聞で「書く力」つける

NIEアドバイザー 田野辺教諭指導



新聞を活用した学習活動のワークショップを行う田野辺浩一教諭（左）

鹿児島県NIEアドバイザーの田野辺浩一教諭（西原台小）が11月8日、鹿屋市中央公民館で、新聞を活用して「書く力をつける」学習活動のワークショップを行いました。肝属地区小学校国語教育研究会の主催。

田野辺教諭は白鷗大の渡辺裕子講師が提唱する「ことばの貯金箱」を基に、「ことばを見つめる」「ことばを集める」「楽しむ」「つむぐ」「伝える」学習活動を提案。具体的には児童が新聞から気になる言葉

朝日新聞社鹿児島総局は、昨年と昨年、「新聞活用コンクール」を催した。小・中学校部門は興味を持った記事を切り抜き、要旨と考えをまとめる「スクラップ甲子園」。高校部門は指定の「天声人語」を課題にした「小論文コンテスト」。計2400点を超える応募があり、系列テレビ局や鹿児島大学の関係者とともに審査した。

かごしまメディアの現場から

自分の考えを文にまとめたり、言葉で説明するなどの言語活動に苦手意識を持つている」と指摘。こうした活動で「児童が楽しみながら、ことばを好きになってくれたら」と期待します。

田野辺教諭は児童が地域の魅力を発見し、新聞にまとめて発信する活動にも取り組んでおり、「今後も新聞を活用して児童の表現力の向上に貢献したい」と意欲を見せています。

朝日新聞社鹿児島総局長

内屋敷 敦



小論文コンテストの審査を行う内屋敷敦総局長（左）

人生切り開く力育む

「スクラップ」で最優秀賞に輝いた中学生に将来の夢を尋ねると、「宇宙に関わる仕事に就きたい」という答えが返ってきた。「小論文」の最優秀賞に選ばれた高校生は「海洋を舞台にした研究者になりたい」と目を輝かせた。

ソーシャルメディア上で虚実ないまぜの情報が飛び交い、同じ考えを持つ仲間が異論を排除しようとする風潮が広まる。そんな時こそ、新聞の出番だ。多様な意見を理解したうえで、流されずにしっかりと自分の考えを固める。そして、他人にわかりやすく伝える。文系・理系を問わず、社会の一員として人生を切り開く力を育むうえで新聞は格好の教材だ。

父の出身地、鹿児島に赴任して1年半。神奈川に住んでいた小学生のころ、金峰町の祖母との文通が楽しみだった。あれから40年。鹿児島の子どもたちが新聞に接する機会を微力ながらつくることが、喜びと因縁を感じている。

NIE委員の在鹿新聞・通信社の支局長らが交代で執筆します。

いっしょに読もう！新聞コン

優秀賞に田尻さん 奨励賞は小島さん



家族と新聞を読んだ感想をまとめる「第7回いっしょに読もう！新聞コンクール」（日本新聞協会主催）で、鹿児島南高校3年、田尻みなみさん（写真上）が優秀賞、鹿児島島真由さん（同下）が奨励賞に輝きました。鹿児島純心女子中学校3年の小島真由さんが、朝日新聞の記事「差別意識考」を「偏見や誤った情報にとらわれな

島純心女子中学校に学校奨励賞が贈られました。田尻さんは南日本新聞の連載「かごしま老いの明日」を取り上げ、「施設でも自宅でも、自分の好きな場所で最期を迎えることが幸せ」とつづりました。小島さんは朝日新聞の記事「差別意識考」を「偏見や誤った情報にとらわれな

新しい年が明けました。明るく希望に満ちた年になってほしいです。混沌とする国内外の情勢に、こんな時代だからこそ、新聞の役割の重要性も増していると痛感します。今回から、鹿児島在住の新聞・通信社の総局長・支局長のリーダーエッセイを始めました。メディア側からのNIEへの思いを伝えられたらうれしいです。（事務局長・岩松）

編集後記